

伝統のピカイチ・新しいピカイチ



いくべえ

(社)青森県観光連盟

青森を旅していた妖精。旅をする間に青森をとて気に入り、青い森に住みつく。帽子はりんごの花がモチーフ、しっぽはブナの葉、青森の旅の心地よさ、心から癒される魅力を訪れる人に紹介。

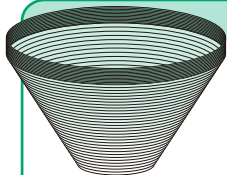
青森県には、豊かな自然と生活、文化の中で育ったすばらしい技術やものが、たくさんあります。しかし、そういった「**伝統**」をただ守っているだけではありません。

長い時の中で培われた技術を習得しつつ独自の工夫を加え、時には今までのやり方を変えてまったく**新しい試みに挑戦**し、困難を乗り越えて新たな分野を創出したものがあります。

津軽塗



津軽塗は、弘前を中心とした津軽地方に伝わる堅牢で優美な塗物(漆器)で、始まりは江戸時代元禄年間までさかのぼる。**唐塗、七々子塗、紋紗塗、錦塗**という4種類の技法があり、凹凸をつけた下地に色漆を塗り重ねて砥石で研ぎ出して紋様を表すため、約50もの工程を経て完成する。昭和55年に**国の伝統的工芸品に指定**された。伝統を保ちながらも**アクセサリ、インテリア、事務用品**などの斬新な作品を次々と誕生させ、ヨーロッパでも高く評価されている。**オーストリアの老舗クリスタルメーカーとのコラボレーション**で開発した作品も話題を呼んだ!



BUNACO(ブナコ)

BUNACOは、青森県が誇る**ブナ材**をテープ状に加工し、**バームクーヘン**のように巻き重ねて形を作る**工芸品**で、昭和31年、県工業試験場で技術開発されたのが始まり。**美しい立体曲線を自在に表現**できるだけでなく、**木材使用も通常の10分の1**程度。木の優しさとおしさを兼ね備えており、地球にも優しい。国内の高級ホテルなどでも使用され、海外での人気も高く、BUNACOのお盆と茶托を茶器と組み合わせた「Yauatcha Tea Set」は**イギリスで賞を獲得**し、**ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館に永久収蔵**されている。

下北ワイン

むつ市川内地区でブドウの試験栽培が始まったのが平成11年。下北の気候では栽培は難しいと言われながら、強い**信念と地域活性**という**使命感**によって困難を乗り越え、今では38万トンを取穫するほどに。化学肥料を使わないなど**土作りにもこだわり**、赤ワインの原料「**ピノ・ノワール**」は、1ワイナリーとして**国内最大規模**を誇る。

平成19年秋にはワイナリーが完成し、ブドウの生産から醸造まで、すべてがメイド・イン・下北!平成20年の「**Sarah**」に続き、平成22年には「**Nina**」、津軽地方のスチューベンを使った「**青森氷菓**」が、**国産ワインコンクール**で**銅賞**を受賞。平成23年、**県産ブドウ**で初めて**ヌーボー(新酒)**を出荷!平成26年、白ワイン「**下北ワイン カノン2013**」が、国際ワイン審査会で**金賞**を受賞するとともに、青森県産りんご100%のスパークリングワインを新発売!



世界遺産登録を目指して

縄文時代は今から約1万5千年前に始まり、日本で本格的な稲作が始まる弥生時代の開始まで、約1万年もの間つぎました。

青森県は、県内各地に**3千を超える**縄文時代の遺跡が存在し、そのうち**9遺跡が国指定特別史跡や史跡**となっているなど、極めて文化価値の高い地域なのです。

中でも平成12年に国の特別史跡に指定された青森市の「三内丸山遺跡」は、大型掘立柱建物跡や数多くの土器や土偶、装飾品が出土し、発掘が進むにつれ、縄文人の驚くほど豊かな暮らしぶりや精神性など、従来の縄文時代のイメージをことごとく覆しました。

また、八戸市の「風張1遺跡」から出土した「**合掌土偶**」は、座って正面で手を合わせ指を組んだ姿勢で他に例がないことなどから、平成21年に**国宝に指定**され、平成23年7月にオープンした「**是川縄文館**」に展示されています。

三内丸山遺跡の ピカイチ!

大きい

- ◆面積42ha、日本最大級の縄文集落跡!
- ◆直径1mのクリ巨木6本の巨大な柱穴!
- ◆高さ32cmの板状土偶は国内最大級!
- ◆長さ32mの大型竪穴住居跡!

ハイク

- ◆竪穴住居跡や大人・子どもの墓、道路跡など、**施設配置に計画性があり、1,500年間にも及ぶ長期間の定住生活を送った!**
- ◆大型掘立柱建物の**柱穴は直径・深さとも2メートル、間隔は全て4.2メートル。**
- ◆ヒョウタンやゴボウなどの**栽培植物の種子**が出土し、DNA分析により**クリの栽培**も明らかに!
- ◆**赤漆塗りの木製皿や赤色顔料**が出土、高い技術を持っていた!

遠んから

- ◆新潟県糸川市周辺の**ヒスイ**や長野県産の**黒曜石**、岩手県産の**コハク**などを数多く出土。
数百キロも離れた地域の人々と交流していた!

青森県の縄文遺跡は、縄文時代の各時期の文化を今に伝えるものとして学術的に重要なだけでなく、日本という枠を超え、世界の宝として残すべき貴重な文化遺産なのです。

—青森県の縄文—



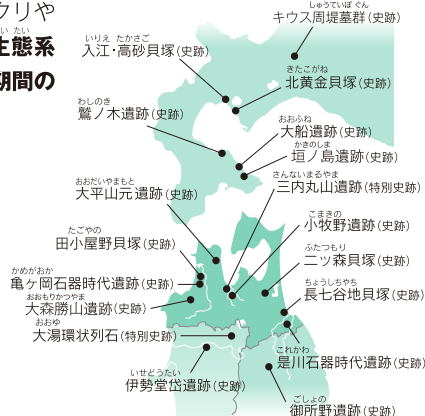
さんまる
(県文化財保護課)

4,500年前の三内丸山で発生し、発掘調査で目覚めた縄文土偶「マスケットキャラクタ」が特別活躍。
◆趣味：三内丸山遺跡の「ピツクリ」を見つけること。
◆特徴：よこから見ると…平らかな(笑)

北海道から北東北は、全国に約9万か所以上ある縄文遺跡のうち約4割が分布する、まさに「**縄文遺跡の宝庫**」です。この貴重な宝を未来に残すため、青森県は、北海道、岩手県、秋田県と協力し、青森県の9遺跡を含む18遺跡で構成する「**北海道・北東北の縄文遺跡群**」の世界遺産登録を目指しており、平成21年1月にユネスコの「**世界遺産暫定一覧表**」に記載されました。

世界遺産白神山地のブナ原生林は、縄文時代に形成されたといわれています。縄文文化は、母なるブナの森の恵みを受けながら、クリや植物の栽培、狩り、漁をバランスよく行い、**生態系を守る**ことによって、豊かな生活を送り、**長期間の繁栄を維持**することができたのです。

自然に感謝し、自然と共生するという縄文の暮らしには、現代に生きる私たちが学ぶべきことがたくさんあります。日本の基礎をつくった**縄文文化**を、**私たちの手で守り、未来へ繋いでいきましょう！**



「北海道・北東北の縄文遺跡群」(18遺跡)

時代	青森県	北海道	岩手県	秋田県	世界の出来事
今から約13,000年前	旧石器時代				北京原人の活躍 ラスコー洞窟壁画(フランス)
約9,000年前	草創期	大平山元遺跡(外ヶ浜町)			
	早期	長七谷地貝塚(八戸市)	垣ノ島遺跡		長江下流域で稲作の始まり(中国)
約6,000年前	縄文時代	前期	三内丸山遺跡(青森市)	北黄金貝塚	中国文明の始まり メソポタミア文明の始まり ストーンヘンジ(イギリス)
		中期	田小屋野貝塚(つがる市)	入江・高砂貝塚	クフ王のピラミッド(エジプト) インダス文明の始まり モンヘンジョダロ(パキスタン)
約4,000年前	後期	二ツ森貝塚(七戸町)	大船遺跡	御所野遺跡	
	晩期	小牧野遺跡(青森市)	鷺ノ木遺跡	大湖環状列石	ハンムラビ法典 殷王朝の成立(中国) ツタンカーメン王即位(エジプト)
約3,000年前		是川石器時代遺跡(八戸市)	魚ヶ岡石器時代遺跡(つがる市)	大森勝山遺跡(弘前市)	春秋時代(中国) パルテノン神殿(ギリシャ) 万里の長城(中国)
約2,300年前					

資料：県教育庁文化財保護課

青森の自然と祭りを楽しもう!

青森のゆるキャラ



ホタちゃん

(青森県ほたて流通振興協会)

むつ湾から、おひたてを
広めるために生まれました。
◆誕生日: 6月18日(ほたての潮)
◆住所: 平内町のほたて広場
(普段はここにいます)
◆好きな食べ物: フランクトン

世界でも日本は四季の変化に富んだ国と
言われます。その中でも青森県は季節の移り変わりがはっきり
しており、四季折々の自然の美しさが私たちの目を楽しませてくれます。

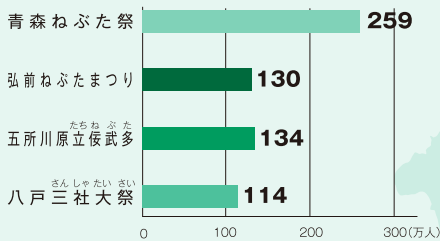
春

弘前公園の空を埋めつくす満開の桜は2,600本。薄桃色の花びらが優しく降りそそぎ、その可憐さに目を奪われます。ゴールデンウィークの頃に満開を迎え、弘前さくらまつり期間中には全国から約230万人(平成26年)もの人が訪れます。

夏

山が力強い緑であふれる頃、県内各地は夏祭りの時期を迎え、躍動感が街を圧倒します。夏を彩る「青森ねぶた祭」、「弘前ねぶたまつり」、「五所川原立佞武多」、「八戸三社大祭」などの主要な夏まつり(12の催事)には、約一か月間で744万人(平成26年)が訪れ、熱気は最高潮となります。

主要な夏まつり(8月上旬)



資料:平成26年青森県内夏まつりの観光客入込数(青森県観光企画課)



五所川原立佞武多



青森ねぶた祭



弘前ねぶたまつり

秋

彩り豊かな紅葉が山や溪流を飾ります。中でも東北で最初に紅葉が始まる八甲田から十和田湖にかけて景色は格別。ブナ・ナラ・タケカンバなど色の種類も豊富で、**14.2kmに渡る奥入瀬溪流、紅葉・黄葉に覆われる十和田湖**(61.02km²、うち青森県分36.61km²)は息を飲む美しさです。

冬

幻想的な雪景色で癒されたり、その中でスキー、スノーボード、スケート、カーリングといった冬ならではのスポーツを楽しんだりします。また、地吹雪ツアーという雪国ならではのイベントまであります。

「雪は邪魔もの？」

大雪の時は除雪で一苦労。平成24年、**青森市の雪日数は年間125日で全国第2位、最深積雪量は152cmで全国第1位！平成25年2月には、青森市酸ヶ湯で気象庁のアメダス観測地点としては最高積雪の566cmを記録！八甲田連峰には、ひと冬で約3,000万立方メートルもの雪が積もります。**

山の雪は少しずつ解けだして土の中にしみ込むため、夏の間も川や湧き水が枯れることはありません。また、積雪は雪の中を0℃に保ち、地面の下の植物や樹木の根の凍結を防ぎます。豊かな「山の幸」は、雪によって支えられているのです。

「自然景観のすばらしい海岸を散策しよう！」

「三陸復興国立公園 種差海岸」は波打ち際まで広がる天然芝生や鳴砂の浜のほか、650種を超える植物が自生する景勝地。古くから、多くの文人墨客たちがその美しい景観に魅了されてきました。遊歩道も整備され、潮風を感じながらトレッキングが楽しめます。



八戸三社大祭

雪日数 (県庁所在地 H24年)

都道府県	日
1 北海道	133
2 青森県	125
3 秋田県	120
4 岩手県	116
5 山形県	108

最深積雪 (県庁所在地 H24年)

都道府県	cm
1 青森県	152
2 山形県	97
3 富山県	95
4 北海道	76
4 新潟県・鳥取県	71

資料：気象庁「過去の気象データ」

海を越えてきた!?

地域の祭りと文化

青森のゆるキャラ



大湊海軍コロちゃん
(大湊海軍コロック普及隊)

コロックをイメージする茶色くて丸い頭と手で、海軍の水兵のセーラー服を着て大湊海軍コロックをPR、PRソングに合わせ踊る。
◆好きな食べ物: 大湊海軍コロック
◆特技: 敬礼、ダンス

青森の夏を彩る4大祭り「青森ねぶた」「弘前ねぶた」「八戸三社大祭」「五所川原立佞武多」は有名ですが、他にも県内各地ではさまざまな祭りが行われます。江戸時代から明治時代、北海道・東北と北陸、大阪・京都などの上方地方の間は「北国船」や「北前船」で物資を運び、深浦・鯉ヶ沢などは海の玄関として栄えました。円覚寺(深浦町)には各地の船から航海の安全を祈る「船絵馬」や、遭難を逃れたお礼として「髻額」が奉納されました。白八幡宮(鯉ヶ沢町)に残る船絵馬には北前船が描かれ、社殿を囲む御影石の玉垣は瀬戸内海や加賀・越前等の廻船問屋が奉納したもの。長い交易の間には、酒造りや麴造りの技術、俳諧文化ももたらされました。京菓子である「くじらもち」や、野辺地町の「茶粥」も北前船がもたらした食文化のひとつ。

他にも、北前船は人や情報の交流にも貢献。京都祇園祭の流れをくむと言われる「田名部まつり」(むつ市)や、上方の歌舞伎役者中村菊五郎・菊松夫妻により伝えられた「福浦歌舞伎」(佐井村)など、距離的に離れた場所にもその影響が残っています。

三二知識

平成17年、復元北前型弁才船「みちのく丸」が建造された。全長32m、全幅8.5m、深さ3m、帆柱までの高さ28mで、自力帆走可能な唯一の木造船として復元され、NHK大河ドラマ「篤姫」(H19)の撮影にも使用された。

平成23年には日本海、平成25年には太平洋のゆかりの港をめぐる航海に出ており、各寄港地ともに盛大な歓迎やイベント、多くの見学者で大いに盛り上がった。現在は、野辺地町が所有しており、将来、陸奥湾に面した常夜燈公園の周辺に「係留展示」する予定である。

福浦歌舞伎(佐井村)

明治20(1887)年、上方の地回り役者である中村菊五郎・菊松夫妻が2年間指導し住民に伝えた。

田名部まつり(むつ市)

京都祇園祭の流れを汲むもので、お囃子と共に豪華絢爛な山車が市内を練り歩く。8月20日夜、5台の山車が梅酒を酌み交わし、来年の再会を誓う「五車別れ」でクライマックスを迎える。

白八幡宮大祭(鯉ヶ沢町)

鯉ヶ沢湾を一望できる高台にある白八幡宮の祭礼。「津軽の京まつり」とも呼ばれ、300年以上の伝統を持ち、4年に一度、8月14日から16日に開催。神輿渡御行列・山車運行を行う。次回は平成29年!

のへじ祇園まつり(野辺地町)

優雅な祇園囃子と豪華絢爛な山車が庁内を練り歩く。お囃子の旋律が京都の祇園祭に似ているのは、南部藩の商港として栄えた時代に移入したと言われる。

資料: 青森県奥津軽観光サイト、県立郷土館ニュース、関係市町村、県民生活文化課HPなど

世界一のブナ林・白神



アルファくん
(青森県営スケート場)

2006年8月にデブイヘア作家の市川和子さん宅で誕生。遠い氷の星で修行後、青森県営スケート場に就職。愛くるしい笑顔と青い目、青いリボンが特徴の白くま。現在4歳の男の子で、スケートを猛特訓中。

しらかみさんち

白神山地は、青森県南西部から秋田県北西部にまたがる約13

万haに及ぶ広大な山地帯の総称です。太古の昔から変わらぬ自然が残っている白神山地は、**1993年(平成5年)12月に日本初の世界遺産(自然遺産)**として登録されました。2014年(平成26年)7月現在、世界遺産リスト登録件数は1,007件、うち

日本では白神山地を含め18件(自然遺産は白神山地、屋久島、知床、小笠原諸島の4件だけ!!)です。

この地球上に残された世界最大級の原始的なブナ林には、**500種**

を超える植物や多くの動物たちが生息する貴重な生態系が保たれています。

ブナの森は、動物たちの命を育む木の実や木の葉などを提供するほか、落ち葉や枯れ木は栄養豊かな土壌となり動植物を養うとともに、森に降った雨を蓄え、地表の浸食も防いでいます。

白神山地には、**推定樹齢400年、幹周り465cm、胸高直径148cm、樹高30m**の巨木も確認されており、「**マザーツリー**」と呼ばれています。

青森県には、守り伝えていきたい豊かな自然がいっぱいです！

	世界遺産登録面積	比率	東京ドームに換算すると
全体	16,971ha	100.0%	3629.8個分
青森県側 (約4分の3を占める)	12,627ha	74.4%	2700.7個分
鱒ヶ沢町	4,650ha	27.4%	994.3個分
深浦町	4,119ha	24.3%	881.2個分
西目屋村	3,858ha	22.7%	825.2個分
秋田県側(藤里町)	4,344ha	25.6%	929.1個分

主な植物	◆アオモリマンテマ (青森県で初めて見つかった。県レッドデータブック重要希少野生生物) ◆ツガルミセバヤ (青森県で初めて見つかった。県レッドデータブック重要希少野生生物) ◆シラガミクワガタ (県レッドデータブック重要希少野生生物)
主な動物	◆ニホンカモシカ (国の特別天然記念物) ◆ツキノワグマ ◆ヤマネ (国の天然記念物、県レッドデータブック希少野生生物) ◆ニホンザル (県レッドデータブック地域限定希少野生生物)
主な鳥	◆クマガゲラ (国の天然記念物、県レッドデータブック最重要希少野生生物) ◆イヌワシ (国の天然記念物、国内希少野生動物種、県レッドデータブック最重要希少野生生物) ◆シノリガモ (県レッドデータブック重要希少野生生物)



※写真：クマガゲラ (東北森林管理局提供)

資料：県自然保護課、ユネスコ世界遺産センターHP、文化庁HP、林野庁HP、全国巨樹・巨木林の会HP



日本最古のソメイヨシノ

たか丸くん

(弘前城築城400年実行委員会)

弘前城築城400年祭のキャラクター「たか丸くん」の「鷹」を可愛らしくデザイン。男は津軽為信のものをイメージし、つべんには弘前城の天守をのっけてます。

藩政時代、津軽氏の居城であった弘前城は、現在、**弘前公園**として多くの市民や観光客に親しまれています。明治末期頃から

市民による桜の寄贈が盛んになり、**広さ約49.2ha**の園内には、ソメイヨシノを中心に**52種約2,600本の桜**が、ちょうどゴールデンウィークあたりに、艶を競って咲き誇ります。**日本最古のソメイヨシノは明治15年(1882年)植栽で樹齢133年!** 寿命60年といわれるソメイヨシノ、昭和30年頃一度枯れそうになりましたが、関係者が懸命の手当てで蘇らせたのです。桜の枝は剪定しないのが常識だった当時、**りんごの剪定技術を取り入れてみよう**と試み、未来を切り拓いたのです。

樹齢100年以上のソメイヨシノは300本以上! その1本、**日本一太いソメイヨシノ(幹周り5m37cm!)**も「緑の相談所」裏で咲き誇ります。**弘前公園の桜の美しさは、手間と時間を惜しまず剪定と肥料やりを熱心に続けている賜物。**日本一のりんごに欠かせない**剪定技術**とこれに合わせ独特な形の**剪定鋏**を造り出してきた藩政時代の**刀鍛冶**から続く**「津軽打刃物」の技術**が下地なのです。

また、同じ弘前市内の百沢～常盤野県道沿い、岩木山の南側**総延長20kmの桜並木(オオヤマザクラ6,500本)**は**世界一の長さ!** 岩木山神社近くの桜林公園にも約1,000本の桜があります。

桜の本数が多い県内の公園

弘前市弘前公園	2,600本
八戸市八戸公園こどもの国・植物園	2,000本
三戸町城山公園	1,600本
五所川原市芦野公園	1,500本
六戸町館野公園	1,500本
弘前市桜林公園	1,000本
おいらせ町下田公園	800本

また、同じ弘前市内の百沢～常盤野県道沿い、岩木山の南側**総延長20kmの桜並木(オオヤマザクラ6,500本)**は**世界一の長さ!** 岩木山神社近くの桜林公園にも約1,000本の桜があります。

また、同じ弘前市内の百沢～常盤野県道沿い、岩木山の南側**総延長20kmの桜並木(オオヤマザクラ6,500本)**は**世界一の長さ!** 岩木山神社近くの桜林公園にも約1,000本の桜があります。

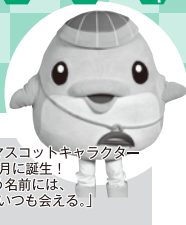


写真：弘前城 下乗橋

資料：弘前市公園緑地課、市町村照会、他



自然からの贈り物 再生可能エネルギー



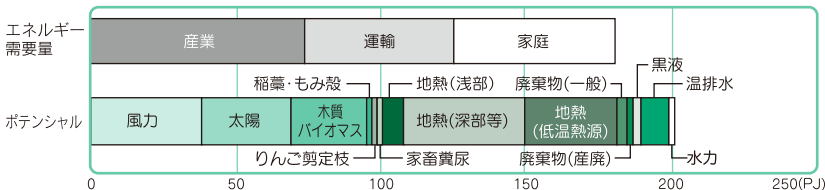
こころ

(浅虫水族館)

浅虫水族館のマスコットキャラクターで、平成18年7月に誕生！
「こころ」という名前は、「ここに来ればいつも会える。」という意味が。

再生可能エネルギーとは、二酸化炭素を排出せず、永続的に利用できるエネルギーです。青森県は、豊かな自然環境に恵まれており、再生可能エネルギーのポテンシャルは、県内のエネルギー需要を上回るという調査結果もあります。

青森県のエネルギー賦存量



資料：県エネルギー総合対策局

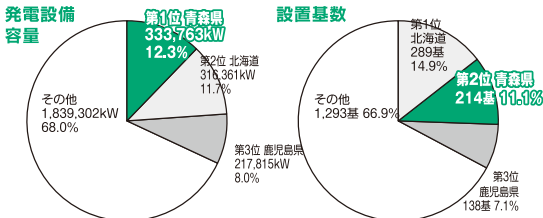
特に、風力発電は全国有数の適地となっており、平成26年3月末現在で、風力発電の設備容量が333,763キロワットで全国第1位、設置数が214基で全国第2位となっています。

また県内には世界初のNAS蓄電池併設型のウインドファームがあり、その電気は首都圏のビルで「グリーン電力」として利用されています。

その他、県内では、大規模太陽光発電施設(メガソーラー)が稼働しているほか、地中熱や温泉熱を利用した住宅・施設等での冷暖房や融雪など、地域の特性に応じた様々な再生可能エネルギーの活用が図られています。

本県での再生可能エネルギーの導入推進により、脱化石燃料と二酸化炭素の排出量削減につながり、持続可能な低炭素社会の実現に大きく貢献していくことが期待されます。

風力発電導入量ランキング (平成26年3月末現在)



県内の主な風力発電施設 (平成26年3月末現在)

設置場所	発電設備容量
東通村 (岩屋ウインドファーム)	1,300kW×25基
(岩屋ウインドパーク)	1,500kW×18基
(尻労ウインドファーム)	1,750kW×11基
(小田野沢ウインドファーム)	1,300kW×10基
(ユラスヒッツ北野沢クリフ風力発電所)	2,000kW×6基
六ヶ所村 (むつ小川原ウインドファーム)	1,500kW×21基
(六ヶ所村風力発電所)	1,500kW×20基
(六ヶ所村二又風力発電所)	1,425kW×2基
	1,500kW×34基
野辺地町 (野辺地ウインドファーム)	2,000kW×25基
深浦町 (深浦風力発電所)	2,300kW×9基
五所川原市 (市浦風力発電所)	1,930kW×8基
横浜町 (大豆田風力発電所)	1,750kW×6基
(菜の花風力発電所)	1,990kW×1基
(はまなす風力発電所)	1,990kW×1基
外ヶ浜町 (竜飛風力発電所)	1,675kW×2基
つがる市 (木造風力発電所)	1,990kW×1基
佐井村 (さくら風力)	1,703kW×1基

資料：NEDO、県エネルギー開発振興課

平成27年度末北海道新幹線新青森・新函館北斗間開業!!



かつて青函連絡船の時代、青森と函館は約4時間で結ばれていました。現在は、新青森～函館間に特急列車が走り、所要時間が約2時間。これが北海道新幹線が開業することによって、新青森～新函館北斗間は約1時間に短縮され、開業後の平成30年春には、最速約39分で結ばれる予定です。

東北新幹線全線開業4周年!!

平成22年12月4日の東北新幹線全線開業から4年。
実は、東北新幹線にはいろいろな「ピカイチ!」があるのです。

日本一速い! 高速新幹線車両(E5系)「はやぶさ」

東京～新青森間の最速速列車は平成25年3月から2時間59分! 新青森駅発着の全ての車両にE5系車両が導入されています。車体の揺れを瞬時に感知し電気力で振動を抑制する「フルアクティブサスペンション」を日本で初めて全車両に取り付け、さらに世界で初めてカーブでの乗り心地を改善する「車体傾斜制御」を一緒に搭載。また、国内新幹線初となるファーストクラス「グランクラス」が導入され、世界最高レベルのスピードと「癒し・やすらぎ」を感じられる最高級の客室設備・空間が実現!



路線が日本一長い! 新青森～東京間

東北新幹線全線開業後は、東京～新青森間の営業キロが713.7kmとなり、在来線も含めた中で、日本最長の路線! これまでの山陰本線(営業キロ673.8km)に代わり、日本一となりました。

世界一長い陸上トンネル「八甲田トンネル」

「八甲田トンネル」は全長26.455km、複線断面では世界一長い陸上トンネルです。青森県の中央部にある八甲田山系の北端に位置し、八戸駅から新青森駅までの距離(81.8km)の約3分の1を占めるこのトンネルは、6年7カ月にわたる掘削工事のすえ平成17年2月に貫通しました。



新幹線の鉄道橋で橋脚間隔が日本一長い！

三内丸山遺跡に近い国道7号青森環状道路をまたぐ「三内丸山架道橋」は、橋長450m。橋を支える橋脚と橋脚の間隔は最長150m、新幹線の鉄道橋で日本一長い間隔です。太い柱の両側から数本のケーブルが斜めに張られたエクストラードズド橋で、柱の高さと桁の厚さを可能な限り抑えているので、青森ベイブリッジなどの斜張橋に比べて柱が低くケーブル角度も水平に近いのが特徴。



まだまだあるぞ、 鉄道のピカイチ！

青森のゆるキャラ

モーリー

(青い森鉄道株式会社)

青い森鉄道のイメージキャラクター。緑の森の中で、突然生まれた青い色の木。◆鉄道の仕事をたまに手伝っている。◆誰にでも優しく、芯の通った性格。



第3セクター鉄道「青い森鉄道」もピカイチがいっぱい！

東北新幹線開業に伴い、並行在来線としてJR東日本から経営分離され誕生した「青い森鉄道」は、目時・青森駅間121.9kmを営業する日本一長い第3セクター鉄道です。

また、「青い森鉄道」は第3セクター鉄道としては日本で初めて上下分離方式を採用した鉄道です。青い森鉄道では、県が線路や駅舎等の施設(「下」の部分)を、第3セクター鉄道会社が電車(「上」の部分)を所有し運営する形の上下分離となっています。

さらに、上北町～乙供駅間にある「天間川橋梁」はなんと世界で初めて「3径間連続アーチ橋」で建設された鉄道橋です。

いろいろなピカイチのある青い森鉄道に、みなさん、是非ご乗車ください。

“長大海底トンネル”「青函トンネル」

津軽海峡の海面下240mの海底で北海道と結ばれる「青函トンネル」は、全長53.85kmで海底トンネルとしては

世界一長いトンネルです。日本の最新技術を駆使し、昭和63年(1988年)3月に開通！その技術が、英仏海峡トンネルでも活用されました。

「青函トンネル」のピカイチデータ

トンネル全長	53.85km(うち海底部23.30km)
スーパーロングレール	延長52.57km
使用したセメントの量	約85万t(セメント袋を積み上げると富士山の850倍)
掘った土砂の量	約630万m ³
水平ボーリング	2,150m(世界最長！)
火薬の量	約2,900t
作業員の延べ人員	約1,400万人
工事期間	約24年間

オンリーワンで行こう！

青森県には、アイデアを原動力に、新しい技術を全国・海外へ発信し続ける元気な企業や団体がたくさんあります。共通するのは、「創意工夫で他社との差別化を図る」、つまり、オンリーワンで行こう！ということ。

世界初！食品カロリー自動測定装置 株式会社ジョイ・ワールド・パシフィック(平市)

電子レンジのような機械に食品を入れ、わずかが数分でカロリー数値を計測できる。光の波長「近赤外線」を応用し、生の食材からお惣菜、お弁当など調理後の食品も測定可能！肥満への関心の高いアメリカや中国・韓国など、世界各国で特許取得済み。

世界トップレベル！産業用固定抵抗器 ニッコーム株式会社(三沢市)

世界トップレベルの精度を誇る産業用固定抵抗器を開発。産業用機械の制御装置や新幹線列車制御、精密電子計測器などからハイブリッド自動車や電気自動車にまで使われている。取引先は国内400社、海外50社！様々な用途で世界の社会インフラを支えている。

世界シェア9割！角度センサー 多摩川精機株式会社(八戸市、三沢市及び南部町)

ハイブリッドカー(HV)や電気自動車(EV)の心臓部である駆動用モーターに搭載する「角度センサー」で、9割の世界シェアを握る。同社の製品抜きではエコカーが作れない！

国内トップクラス！ stockings生産 アツギ東北株式会社 むつ事業所(むつ市)

日本 stockings 市場のバイオニア「アツギ株式会社」の生産工場として、国内最大級の stockings 生産量を誇る。工業統計調査(H24年)で青森県が「パンスト出荷数日本一」となっているのは同社の存在によるところが大きい。

世界初！高純度プロテオグリカンの量産化に成功 株式会社角弘(青森市)

プロテオグリカンは、コラーゲンやヒアルロン酸と一緒に細胞間に存在し、保水性や柔軟性をもち、クッションのような役割を果たしている。

かつては、1g3,000万円と非常に高価だったが、弘前大学との共同研究により、サケの鼻軟骨から大量に抽出する画期的な技術を開発した。平成22年から美容・健康分野への応用が始まり、化粧品やサプリメントなどの健康食品が続々と発売されている。

世界初！光学素子「クロビット」 株式会社テクニカル(弘前市)

0.2mmの直角三角プリズムは世界最小クラス。同社が開発した「クロビット」は、大きさ・形状・屈折率の異なる複数のプリズムを組み合わせることで、1台のカメラでコインの表裏やサイコロの6面を同時に見ることを可能にした。

き ぎょう 元気な企業たち

青森のゆるキャラ



お米大使

(青森県産米需要拡大推進本部)

青森米の応援キャラクター

◆(中央)お米大使ピカピカ:
天の恵みを表す

◆(左)アオちゃん:水の恵みを表す

◆(右)モリくん:森の恵みを表す

プロが絶賛! 音質向上「クリーン電源」株式会社光城精工(平市)

オーディオ機器の電力を安定化し、音質向上に重要な役割を果たす。プロミュージシャンや全国のオーディオマニア、劇場などから評価され、音質に感激したギタリストで日本音響学会会長の寺内タケシ氏から感謝状も!

世界トップレベルの電着画像技術! テフコ青森株式会社(弘前市)

0.03ミリ~0.15ミリの薄い特殊シールを作り出すという世界が認めるこの技術は、国際特許も取得。世界で生産される高級腕時計の文字盤をはじめ、テレビ、パソコン、自動車のブランドロゴマークなどにも使われている。

世界初! 小型光センサー糖度計 東和電機工業株式会社(藤崎町)

りんごなど果実の表面に光センサーを当てるだけで測定できる小型糖度計を開発。樹に実ったままの果実も測定できる「非破壊・ハンディタイプ」の糖度計は世界初!

高精度、高安定の「サーミスタ温度センサ」のトップメーカー! 株式会社三戸芝浦電子(三戸町)

サーミスタ温度センサは、自動車、空調機、冷蔵庫、炊飯器、エアコン、プリンタなどに埋め込まれ、暮らしの様々なシーンで活躍。親会社の芝浦電子はサーミスタ温度センサのトップシェアを誇る!

県産黒にんにくを米国、欧州、アジアへ! 有限会社柏崎青果(おいらせ町)

県産にんにくを熟成させた黒にんにくを主体とし輸出に取り組み6次産業企業。世界の展示商談会等への継続参加により成約率を高め、さらに協同組合青森県黒にんにく協会として「青森の黒にんにく」の地域ブランド化を推進し、米国など世界各国に輸出している。

県産100%りんごジュースを世界へ! 青森県農村工業農業協同組合(JAアオレン)(弘前市)

空気に触れない状態で搾ることで、酸化防止剤(ビタミンC)を使用しなくても褐変しない独自製法「密閉搾り」による高品質ストレートジュースを開発。台湾大手スーパーとプライベートブランド(PB)商品を共同開発し、輸出量が拡大している。

資料:全国のモノ作り中小企業300社(経済産業省)、
東北の「光り輝く」企業たち(財団法人東北産業活性化センター)、
県商工政策課、県地域産業課、県産業立地推進課、県国際経済課

温泉いっぱい ん~幸せ!



かんきょうしょう
環境省の温泉利用状況報告(平成25年3月

バムバムくん
(社団法人青森県観光連盟)

アスバムの開館10周年を記念して誕生。
◆血液型:A型
◆好きなもの:青森りんご
焼きたてのアップルパイ
◆趣味:アスバムのイベントで
子どもたちと遊ぶこと!

末日現在)によると、青森県は温泉地数が
ゆうしゆつりよう
全国第4位、湧出量は全国第4位の温泉の宝庫!

温泉地数	(か所)	湧出量	(ℓ/分)	
1位	北海道	254	1位 大分県	286,032
2位	長野県	217	2位 北海道	231,911
3位	新潟県	154	3位 鹿児島県	206,894
4位	青森県	143	4位 青森県	139,315
5位	福島県	135	5位 熊本県	135,719



市街地でも温泉が湧き出すので、近所の銭湯にも温泉銭湯が多くあります。

青森県は人口10万人当たりの公衆浴場数が**24.7ヶ所**(平成23年度)でダントツの**全国第1位!**なんと**全国平均の6倍**です。(※ピカイチデータ100もご覧ください。)いつでも温泉や銭湯に入れるよう車に入浴セットを常備している人も珍しくありません。東京オリンピックの開催は2020年ですが、「青森県五色温泉協議会」の主催するオリンピックならぬ「お湯オリンピック」として、お湯の色の異なる5温泉が名を連ねております。エメラルドグリーンの**新屋温泉**(平川市)、茶褐色の**古遠部温泉**(平川市)、黄金色の**黄金崎不老ふ死温泉**(深浦町)、白濁色の**下風呂温泉まるほん旅館**(風間浦村)、黒色の**東北温泉**(東北町)です。ほかに大町桂月が愛した**鳶温泉**(十和田市)など、バラエティ豊か。青森県民はラーメン好きが多いように(※16ページもご覧ください)、温泉好きも多いんですね!

◆国民保養温泉地指定第1号 酸ヶ湯温泉(青森市)

300年ほど前、江戸時代から開かれていた山の温泉宿。湯治客も多い。名物は80坪の総ヒバ造り大浴場「千人風呂」。昭和29年には**国民保養温泉地第1号**に指定!これは、数ある温泉地のうち、温泉利用の効果が十分期待され、かつ健全な温泉地として優れた条件を備えている地域を環境省が指定しているもので、全国に91ヶ所だけ(H24.9.1現在)。そして青森県には**国民保養温泉地がもうひとつ!**「**薬研温泉**」(むつ市)が昭和46年に指定されています。

湯治の伝統を昔から伝える「温泉王国」青森県。美容とリフレッシュは青森県の温泉で!

資料:温泉利用状況報告(環境省)、環境省自然環境局HP、統計でみる都道府県のすがた(総務省)、「青森県の温泉」HP(県自然保護課)、アプティネット「温泉」HP(県観光交流推進課)、「まるごと青森ブログ」

除雪の早さは日本一！？

青森空港
除雪隊

「ホワイトインパルス」

青森のゆるキャラ



つがるちゃん

(つがる市)

青森空港は本州最北端の豪雪地帯に位置し、年間の累計降雪量が10mを超えることもある空港です。

つがる市のマスコットキャラクター。
◆どんな子？キュートでおしゃれな女の子。
◆特徴：全身でつがる市の特産物 コメ、スイカ、リンゴ、トマト、ネギ、メロン、ナガイモ、ヨボウを表している。

航空機用の冬タイヤはな

いので、冬期間の離発着のためには、滑走路などの雪や氷を取りのぞくことが必須となります。

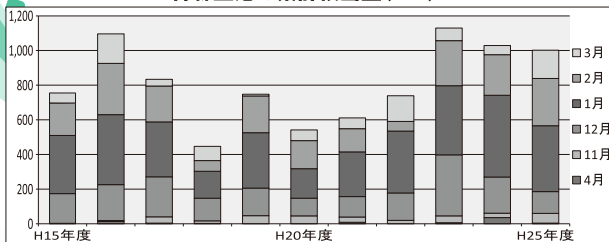
除雪を行っているのは、複数の企業体により編成される、青森空港除雪隊ホワイトインパルスです。

滑走路・誘導路を除雪する本隊は、スノーブラウ、スノースイーパー、ブラウ付きスイーパーで構成されており、計12台が隊列を組んで走行します。

長さ3,000mの滑走路に加え、誘導路や航空機駐機場所を含めた青森空港の除雪面積は約55万㎡！

これは、東京ドーム約12個分です。青森空港では、この面積を約40分で除雪します。除雪スピードは1.37万㎡/分となっており、これは東京ドーム1個分を約3分20秒で除雪するスピードです。

青森空港の累計積雪量 (cm)



スノーブラウ



スノースイーパー



ブラウ付きスイーパー

ピカイチデータ番外編

青森県のピカピカ人財

さまざまな分野で、夢をもって未来を拓く、個性豊かな、素晴らしい人財(人材)をたくさん輩出している青森県。いくつかの分野に焦点を当て、「数字だけでは読めない」ピカイチな人財の足あとをたどってみました。他にももっとももっとたくさんのピカピカ人財がいます。調べてみると意外な発見があったり、なかなか楽しいですよ。

技術・工学

木村 秀政

(1904~1986)
五戸町

産業発展のカギとして注目を浴びている「モノ作り」の力。青森県には、英知と技術力で日本のモノ作りを牽引した人たちがいます。

「航研機」設計に携わった後、初の国産旅客機「YS11」を開発。プロペラ機で、短い滑走路でも発着できるのが特徴。頑丈で、製造終了後30年以上たった現在も活躍中の機体がある。

工藤 富治

(1889~1959)
むつ市

金属製として初めて長距離飛行の世界記録を達成したフランスの飛行機「D33型」の製作責任者。1938年には、日本の超長距離試作機「航研機」を製作し、世界記録を更新。

中村 松太郎

(1894~1987)
八戸市

県内外の重要な寺社の建立・修復に携わり、「日本の名工100人」に。自宅の失火で消失した寺院の再建を悲願に宮大工を志し、54年目にして寺の再興を果たす。

堀江 佐吉

(1845~1907)
弘前市

洋風建築の先覚者。津軽藩の城大工の家に生まれ、独学で斬新な洋風建築を数多く手がける。建築を「作品」にまで高め、文化財に指定されている建物も多い。

科学

石館 守三

(1901~1996)
青森市

未踏の領域に果敢に挑戦し、新たな「知」を生み出す科学者。青森県には、探究心と創意工夫で私たちの知識や幸福に貢献した人たちがいます。

東京大学の初代薬学部長。ハンセン病の治療薬プロミンの国産化に成功。がんの化学療法剤第1号の開発など、薬学上、数々の実績を残した。「人類愛」の理念のもと、アジア各国のハンセン病、エイズ対策などに心血を注いだ。元日本薬剤師会長。

一戸 直哉

(1878~1920)
つがる市木造

日本天文学界の功労者。東京天文台の観測主任を務め、大型望遠鏡による宇宙観測を主張。「日本天文学会」の創設を推進したほか、科学誌「現代之科学」を創刊し科学ジャーナリストとしても活躍。大型望遠鏡は、1999年にハワイに完成した「すばる」により、没後80年を経て実現。

かわ ぐち じゅんいち ろう
川口 淳一郎
(1955～)
弘前市

史上初めて、月以外の天体に着陸し、地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクターリーダー。3億キロ離れた宇宙でのトラブルを克服し、7年もの歳月をかけて帰還を果たした科学技術と熱意に、世界中から拍手が送られた。

にし やま しやうじ
西山 正治
(1922～1993)
八戸市

世界初の「レントゲン車」を開発した医師。さらに、あらゆる角度からの撮影を可能とする「ジャイロスコop」の開発が世界に認められ、国際医学放射線学会賞に輝く。

ほた い しん きし
畑井 新喜
(1876～1963)
平内町

我が国近代生物学のバイオニア。東北大学付属浅虫実験所開設に尽力。「太平洋学会会議」の席上、優れた業績を残した研究者に贈られる賞は、「畑井メダル」と呼ばれる。

ジャーナリズム

青森県は、草創期から、わが国ジャーナリズム界を牽引するそうそうたるジャーナリストを輩出してきました。

くが かつ なん
陸 羯南
(1857～1907)
弘前市

明治の言論界をリード。新聞「日本」を創刊。明治20年代、日本の近代化・国際化の過程にあつて、欧化主義に反対する立場をとり、国民の精神的共同体としての国家を説いた。

さわ だ きやういち
沢田 教一
(1936～1970)
青森市

報道カメラマン。ベトナム戦争の悲惨さや残酷さを4年以上も最前線に撮り続け、戦場に散った。国際的に高く評価され、受賞は多数。「安全への逃避」はピューリッツァー賞に輝く。

と や べ しゆんてい
鳥谷部 春汀
(1865～1908)
五戸町

人物評論の第一人者。明治30年代雑誌「太陽」を主宰。周到な調査に基づく平明な文章による客観的な人物評論は「天下の絶品」と称された。

は に こ
羽仁 もと子
(1873～1957)
八戸市

日本初の女性記者。「家庭之友」を創刊、後に独立し婦人之友社を設立。雑誌を通じ、女性が自分の才覚で家庭を切り盛りする知恵と勇気を与えた。子どもたちの自由な発想を助け才能を伸ばす教育のため「自由学園」を創立。

文学

日本を代表する多くの文学者を世に送り出してきた青森県。文学界のビッグタイトル、芥川賞・直木賞の受賞者も輩出しています。

いし ぎか よう じ ろう
石坂 洋次郎
(1900～1986)
弘前市

ユーモラス・軽快な青春小説で国民的人気を博した作家。「若い人」「青い山脈」「石中先生行状記」など次々とヒット作を発表。「陽のあたる坂道」など映画化された作品も数多い。